

エクス・ノーヴォ室内合唱団演奏会 vol.8

クラウディオ・モンテヴェルディ生誕450周年記念 part 2

1567→2017

Il concerto celebrato il 450° anniversario
dalla nascita di Claudio Monteverdi

モンテヴェルディ

《聖母マリアの夕べの祈り》

Vespro della Beata Vergine (1610)

da concerto composto sopra canti fermi

2017.11.15(水)

19時開演(18時20分開場)

※18時30分より福島康晴による解説がございます。

東京文化会館

小ホール

(JR上野駅公園口改札前)



〔出演〕

ソプラノ：阿部早希子、佐藤裕希恵 テノール：鏡貴之、金沢青児、鈴木秀和、前田ヒロミツ

バリトン：小藤洋平、山本悠尋 バス：三浦英治、目黒知史

ヴァイオリン：朝吹園子、堀内由紀 ヴィオラ：中島由布良 チェロ：懸田貴嗣 コントラバス：徳島大藏

ホルネット：上野訓子、笠原雅仁 (&テオルボ) トロンボーン：飯田智彦、大内邦靖、宮下宣子

テオルボ：太田耕平、佐藤亜紀子 オルガン：栗形亜樹子 指揮：福島康晴

〔チケット〕 前売一般：4,500円 当日：5,000円 学生：2,500円 (要予約・ムジカキアラのみ取り扱い)

〔チケット予約&お問い合わせ〕 ムジカキアラ 電話：03-6431-8186 (平日10時~18時) メール：info@musicachiara.com

〔その他チケット取り扱い〕

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 / チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:340-392] (セブンイレブンにて購入可) / イープラス <http://eplus.jp> (ファミリーマートのFamiポートにて購入可) / 東京古典楽器センター 03-3952-5515

助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団 公益財団法人 野村財団 後援：日本イタリア古楽協会

《聖母マリアの夕べの祈り》が出版された1610年当時、モンテヴェルディは後に自らがヴェネツィアのサン・マルコ寺院の楽長として君臨することを知る由もありませんでした。当時マントヴァのゴンザーガ家に使っていたモンテヴェルディは、主にオペラやマドリガーレなど世俗作品を中心に作曲していましたが、マントヴァでの仕事に疲弊し、待遇への不満から、ローマの教会に新たな就職先を求めようとしていました。そのためモンテヴェルディは、宗教曲も作曲する能力があることを証明するために出版する必要があったと推測されています。

この作品は声部や使用する楽器の種類が多から非常に大きな編成で演奏されるイメージがありますが、それとは裏腹にこの作品の表紙には「小礼拝堂もしくは要人の部屋に相応しい ad Sacella sive Principum Cubicula accommodata」と明記されています。本公演では、このモンテヴェルディの言葉をヒントにして、基本的に1パート1人にて演奏し、モンテヴェルディが想定していたであろう響きを追求します。



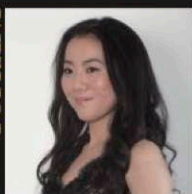
福島康晴(指揮)

モンテヴェルディ生誕の地であるクレモナにて研鑽を積んだ指揮者=テノール=作曲家。東京音楽大学大学院作曲科修了後バロック音楽に傾倒し、声楽を牧野正人氏に師事する。2006年よりイタリア・ミラノ市立音楽院古楽科にてルネッサンス・ポリフォニーをD.フラテッリ氏の下で学ぶ。これまでに声楽をB.M.カゾーニ、V.マンノの各氏に師事。また、モンテヴェルディ周辺の音楽理論・演奏慣習をR.ジーニ(ヴィオラ・ダ・ガンバ)に師事。2009年にミケランジェロ・グランチャーニ(1605-60)の論文とコンサートにより、最高点・褒賞付きで修了。主宰するアンサンブル・グランチャーニの演奏はイタリア公共放送(Radio Rai 3)で生中継された。併せてミラノ市立音楽院の指揮科にも在籍し、E.ポマーリコ、R.リヴォルタ、杉山洋一の各氏に師事。2012年12月に帰国以来日本での活動を本格的に再開する。2014年2月にALM Recordsより発売されたA.ステッファニー《2声のための室内カンタータ集〈レコード芸術特選盤〉》ではテノールとして参加した他、楽譜の校訂にも携わり、その楽譜はミラノのPian & Forte edizioni社より出版された。東京電機大学非常勤講師。

エクス・ノーヴォ室内合唱団

福島康晴が主宰する、各パート1人から3人という少数精鋭のアンサンブルを基調とするプロフェッショナルな団体。イタリア音楽、それも後期ルネッサンスからバロック時代にかけての宗教曲をレパートリーを中心に据えている。コンサートで取り上げる作品は、必ずそのオリジナル印刷譜または手稿譜を研究し、当時の音楽理論書も参照しながら演奏を構築している。ヨーロッパでは頻りに演奏されるけれども日本ではあまり取り上げられない作品、ヨーロッパの古文書館に収められたまま、まだ演奏されていない未知の作品、そして、既にレパートリーとして定着しているけれども演奏法を再考する必要があると思われる作品を「初めから作り直す EX NOVO (ラテン語)」ことを掲げ誕生した。昨年からは、NHK-Eテレの子供向け教育番組『デザインあ』のコーナー「ガマンぎりぎりライン」にて、声の出演をしている。

SOPRANI



阿部早希子



佐藤裕希恵



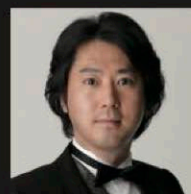
鏡貴之



金沢青児

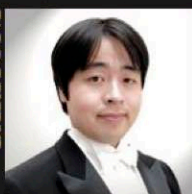


鈴木秀和



前田ヒロミツ

BARITONI



小藤洋平



山本悠尋



三浦英治



目黒知史

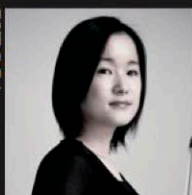


朝吹園子



堀内由紀

VIOLA



中島由布良



懸田貴嗣



徳島大藏



上野訓子



笠原雅仁



栗形亜樹子

TOROMBONI



飯田智彦



大内邦靖



宮下宣子



太田耕平



佐藤亜紀子

